

1 学校教育目標 生き抜く力の育成 やさしく かしく たくましく 思いやりと感謝の心を持ち、自ら学ぶ意欲のあるたくましい児童の育成	2 本年度の重点目標 (1) 出席・役割・承認のサイクルを取り入れた学級・学校づくり (2) 言語力を基盤とした確かな学力向上 (3) 家庭・地域・民間学習塾「花まる学習会」の教育力を活かす活動 (4) 四育成部による実効性のある活動
---	--

達成度 A: ほぼ達成できた
B: 概ね達成できた
C: やや不十分である
D: 不十分である

3 目標・評価

① 知・徳・体の調和の取れた児童の育成推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由 ○は成果、●は課題)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上 【技】育成部	●基礎学力の向上 (国語・算数)	①各学年の家庭学習の目安の時間を習慣化させた児童85%を目指す。 ②学習塾の手法を学校教育に効果的に取り入れ、「計算・音読・視写が上手になった。」と答える児童90%以上を目指す。 ③図書の本の年間貸し出し冊数の平均200冊以上を目指す。	①校内研究において、「スマイル学習」等、家庭での予習を効果的に取り入れた指導法改善に取り組む。 ②「育友会総会、家庭訪問、学級育友会、学力向上便り」等で、家庭学習の重要性や家庭学習の方法について発信し、家庭への啓発を進める。 ③「家庭学習の手引き」「まなぶくん」を活用して、家庭と連携を密にした取組とする。 ④朝の時間の花まるタイム(15分)を活用し、「サボテン」や「あさがお」等を中心に、計算・音読・視写の習熟を図る。 ⑤花まる学習指導員と連携し、花まるタイムの手法とその裏付けを十分に理解したり、学級の実態に応じたより効果的な教材等を工夫したりしながら、基礎学力のより一層の向上を図る。 ⑥家庭と連携し、読書習慣の更なる定着を図る。 ⑦「武雄市おすすめの本」を推奨し、読書の質の向上を図る。			
	●教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施 【技】育成部	●学力向上を視野に入れたICT活用の充実・推進	④公開授業、訪問授業における、タブレット端末または、「スマイル学習」を活用した授業の実施率を90%以上とする。 ⑤保護者授業参観で、年1回以上タブレット端末または、「スマイル学習」を活用した授業を実施する。	④⑤予習と説明を中心とした校内研究において、「スマイル学習」等、タブレット端末を活用した授業を日常的に実践する。 ④⑤ICT支援員との連携を密にした、授業実践を行う。 ④⑤ICT活用について、講師を招聘して研修会を開く。			
	●心の教育 【心】育成部 【絆】育成部	●道徳教育の充実	⑥「考え、議論する道徳」授業の日常の実践を目指す。 ⑦保護者、地域が一体となった道徳教育を目指す。	⑥道徳の教科化に伴い、講師を招聘して研修会を開くなどして、「考え、議論する道徳」授業を推進する。 ⑦土曜開校でふれあい道徳を公開し、家庭、地域と一体となった実践を行う。 ⑦ふれあい道徳の公開の様子、児童の保護者・地域住民の感想等を学校便りや学校ホームページ等で知らせる。			
	●健康・体づくり 【体】育成部	●望ましい生活習慣・食習慣の形成と体力づくり	⑧自他共に大切に、認め合う差別のない集団づくりに努める。 ⑨Q-Uテストにおいて、「学級生活満足群」65%以上を目指す。	⑧Q-Uテスト(年間2回)や生活アンケート(毎月)の結果を学級経営に生かす。 ⑧⑨全ての児童に、出席・役割・承認のサイクルのある学校行事や学級づくりを実践し、児童の自己肯定感を高める。 ⑧⑨教師が互いに学び合いながら、支持的風土のある学級づくりを実践する。 ⑧⑨異学年によるグループを編成し、なかよし班活動(共遊・掃除・遠足・運動会等)を実施する。 ⑧⑨人権週間に全校人権集会や人権標語に取り組み児童の人権意識の高揚を図る。			

② 教職員の資質と指導力・授業力・教師力・倫理観の向上

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由 ○は成果、●は課題)	具体的な改善策・向上策
学校運営	●業務改善。教職員の働き方改革の推進 (質の視点)	●教育活動の効率性向上	⑩勤務時間内に授業研究・教材研究ができる時間を確保する。	⑩様々な取組を前年度踏襲ではなく、その必要性、効果、実施方法を互いに問い合い議論する風土を醸成する。 ⑩取組の選択と焦点化の発想で、縮小、統合、廃止、見直しの業務改善を実施する。			
	○教職員の資質向上 【技】育成部	●指導力の向上 ●服務規律保持の徹底	⑪「先生は、分かりやすく、熱心に授業を教えてください。」と答える児童90%以上を目指す。 ⑫教職員の編制・業務と服務規律の保持に努め不祥事案を0にする。	⑫全職員による年1回以上の授業公開を核として、「確かな学力」を身につけさせる指導方法について学び合い、指導力の向上を図る。 ⑫学習用語を重視した教材研究を行い、「教えて考えさせる授業」を日常的に実践する。 ⑫職員会議に危機管理委員会を設け、「信頼される教職員であるために」等を活用した不祥事案等服務についての事例研修会を継続的に実施する。			
教育活動	●学力の向上 【技】育成部	●コミュニケーション能力の向上	⑭自分の考えを相手にはっきりと分かる声の大きさに伝えられる児童85%以上を目指す。	⑭新学習指導要領の本格実施に向けて「主体的・対話的で、深い学び」についての研修を深める。 ⑭校内研究の算数の授業を中心として、判断場面を意識したアウトプット型の授業実践に、日常的に取り組む。			

③ 地域の教育力の活用と情報の発信により、信頼される開かれた学校づくりの推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由 ○は成果、●は課題)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○学校経営方針の周知	●学校教育目標と本年度の重点目標の周知	⑮教職員・児童・保護者・学校運営協議会・地域学校協働本部等に周知し、周知度を95%以上にする。	⑮職員会議、全校朝会、学級の時間等で説明、意味づけし、周知する。 ⑮学校便り、育友会総会、学校運営協議会、学級懇談会、地区懇談会、ホームページ等で説明、周知する。			
	○開かれた学校づくり	●学校情報の発信 ●学校公開 ●学校評価の公表	⑯月1回以上の学校便りの発行と、ホームページ・ブログ等の更新により学校の情報を発信する。 ⑰授業参観や学校行事を地域に広く公開する。 ⑱学校運営協議会による学校評価や学校関係者評価に取り組み学校改善を図る。	⑯学校便り等を毎月発行し保護者・地域等に配付する。 ⑯ホームページ・ブログ等の更新を、月1回以上定期的に行う。 ⑰授業参観や学校行事を全て公開し、案内を公民館を通して地域にも配付または回覧する。 ⑱学校運営協議会を年間2回以上実施する。 ⑱学校評価の公表と学校関係者評価を実施する。			
	○安全安心な学校づくり 【体】育成部	●校内外の児童の安全確保 ●家庭、地域との連携	⑲家庭、地域と連携し、校内外の事故、犯罪被害の未然防止に努め、発生を0にする。	⑲職員会議に危機管理委員会を設け、危機管理体制の確認や過去の事件・事故の事例を紹介する等、継続的に教職員の危機意識の高揚を図る。 ⑲保護者、地域住民に呼びかけ、危険箇所や児童の校外での様子等、情報収集を図る。 ⑲地域の危険箇所を把握し、保護者、地域との連携による安全体制を整え、事故や犯罪被害防止に努める。 ⑲学校情報メール等で、事件、事故の未然防止のための注意喚起を行う。			
	○家庭・地域・学習塾との連携	●育友会との連携 ●地域との連携	⑲地域住民の花丸タイムへの参加人数1回平均10名以上を目指す。 ⑳保護者の授業参観、学校行事、花丸タイムへの参加率85%以上を目指す。	⑲⑳家庭・地域・学習塾の協力により、花まるタイム、空教室を実施する。 ⑲公民館と協力して行事や情報の発信に取り組む。 ⑲学校支援地域本部に学校への協力を依頼する。 ⑲地域行事、会合に積極的に参加する。 ⑲花まるタイムに必ず1回は保護者に参加してもらうため、全保護者による分担表を作成し、育友会と連携して協力を要請する。 ⑲各種行事等への案内状を早期に配付または回覧する。			

④ 本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由 ○は成果、●は課題)	具体的な改善策
学校運営	●業務改善。教職員の働き方改革の推進 (量)の視点)	●教職員の時間外勤務の削減	⑳時間外勤務の平均時間を前年度比10%削減とする。	⑳タイムレコーダーにより教職員の時間外勤務を正確に把握すると共に、各自で時間外勤務状況を確認するようにし、業務改善の意識高揚を図る。 ㉑職員会議に労働安全衛生委員会を設け、毎月の時間外勤務の平均時間を提示するなどして、業務改善の意識付けをする。 ㉒教諭等が行っている業務の一部を事務職員が支援し、事務職員の学校経営への参画を進める。 ㉒定時退勤日を金曜日に設定し、遅くとも18時には学校を閉める。 ㉒「校務シェア」の「回覧板」の活用や、会議資料の事前配布、内容を精選した提案等で、会議回数、会議時間の削減に努める。			
教育活動	●いじめの問題への対応 【心】育成部	●生徒指導と教育相談の充実	㉓「学校は楽しい。」と答える児童95%以上を目指す。	㉓生活アンケート(毎月)、Q-Uテスト(年間2回)、いじめアンケート(年間2回)を実施し、児童の状況把握を行い、いじめ等を早期発見し適切に対応する。 ㉓教育相談週間を設けて全児童の個人面談を行い、相談にのるとともに、情報収集に努める。 ㉓「あのねポスト」を活用し児童理解を深める。 ㉓外部機関と連携し、児童の実態に応じた情報モラル教育を行う。 ㉓多様性を当たり前のものとして理解し、認め合い支え合う集団づくりを全校あげて実践する。			
	○特別支援教育の推進 【心】育成部	●特別支援教育の推進	㉔特別支援教育への理解と専門性を高めるために年間2回以上の研修を実施する。 ㉔年間2回のPDCAサイクルに基づき、個別の教育支援計画による支援をより効果的なものとする。	㉔講師招聘による職員研修を実施する。 ㉔職員共理解を図るために校内委員会を年間3回、校内研修会を年間2回実施する。 ㉔家庭や専門機関と連携し、個別の支援計画を作成・更新する。 ㉔学期ごとのPDCAサイクルに基づき効果的に個別の教育支援計画の改善を図る。			
	○外国語教育の推進 【技】育成部	●新教育課程の実施に向けた外国語教育の推進 ●国際理解教育の推進	㉕カリキュラムマネジメントにより授業数増加による児童や教職員の負担感を軽減させる。 ㉕外国語活動や外国語科に意欲的に参加する児童90%以上を目指す。	㉕⑤花まる英語を実施する。 ㉕⑤日常的に英語を取り入れる取組を行う。 ㉕⑤ALTを活用した「ミッション」を実施する。 ㉕⑤教職員の研修を行う。金曜日の放課後にALTIによる職員自由参加の英語研修を行う。			

●は共通評価項目、○は独自評価項目